

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	16	学校名	静岡県立小山高等学校 (全日制)	校長名	鈴木 広隆
------	----	-----	---------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	教職員が全体で教育活動に当たる体制を整備していく中で、学校からの情報発信を一層充実させるとともに、ワークライフバランスを尊重しながら協働する組織づくりを行う。	「小山高校は、保護者、中学生、地域に学校の魅力が伝えられるような情報発信をしている」保護者・生徒 80%	(教務課) 生徒 81.3% 保護者 77.3% 教員 91.7%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校案内、小山高だよりのリニューアルに加え、インスタによる学校情報の発信も行った。 ・学校案内や学校広報のプレゼン資料、HP作成なども県の広報支援事業をフル活用した。 ・今後は、広報メディアの精選を検討する必要もある。
		「お互いのワークライフバランスを尊重しつつ、教育活動に協働して取り組んだ」教員 80%	(管理職) 教員 87.5%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員間のコミュニケーションは活発であり、チームとして機能している」教員 79.2%も含め、教職員の相互理解と協働について、一定の結果であった。次年度も継続したい。
イ	生徒が安心して登校し、安全に学校生活を送ることができる教育環境を整備することを土台とし、挨拶の励行や認め伸ばす指導のもと、人権意識の涵養等、生徒の内面の成長を促していく。	「安全・安心な生活を送ることができる」生徒 95% 「小山高生は交通法規を守り、事故防止に努めている」生徒 90%	(生徒課、事務部) 「安全・安心」項目 生徒 96.6% 保護者 94.5% 教員 100.0% 「事故防止」項目 生徒 94.1% 保護者 90.2% 教員 87.5%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重品の管理について、ロッカーの施錠を徹底したい。 ・昨年度に比べ交通事故件数が少なく、生徒が事故防止に努めることができた。道交法改正によりヘルメットの着用が努力義務化されるため、着用の呼び掛けを徹底したい。 ・校内の老朽箇所等を中心に、環境改善整備を計画的に行っていく。
		「小山高生は元気な挨拶ができる」生徒 90% 「小山高生は、正しい身なりや服装が習慣化できている」生徒 90%	(生徒課) 「挨拶」項目 生徒 89.7% 保護者 82.8% 教員 83.3% 「服装」項目 生徒 96.6% 保護者 97.7% 教員 95.8%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の挨拶運動において、生活委員や教員自ら模範となる挨拶ができるようにしたい。 ・身なりや服装に関しては、気になる生徒について、学年全体で周知、声掛け、指導をしたい。 ・式典での正装の確認を徹底したい。

様式第3号

ウ	学校全体で進路対策に当たり、生徒が進路に対する意識を高め、適切に進路を選択して希望する進路を実現できるよう支援する。そのために、読解力、記述力の伸長、家庭学習の充実を図り、大学入学等に必要とされる学力を育成する。	学びの基礎診断における1・2年生の成績（GTZ）が年間を通じて1ランク上昇する。	（進路課） GTZは、1年生は英数国全てC1で変化なし。2年生は英語C1（変化なし）国語C1→B3（1ランク上昇）数学B3→C1（1ランク下降）であった。	B	・PDCAサイクルを回すために、2年生は模試ノートを作成し、復習問題に取り組むなど工夫した。スタサブ等の学習用教材もうまく活用し、学習習慣を確実に定着させたい。
		「学校は進路情報を提供し、進学説明会を行うなど、計画的に進路指導を行っている。」80%	（進路課） 生徒93.5% 保護者85.2% 教員91.7%	A	・コロナ禍ということもあり、保護者へ直接、進路情報を提供する機会がほとんどなかった。進路冊子の「滞標」の内容改訂や、保護者も参加可能な進路説明会を企画することで、生徒と保護者に進路に関する基本事項や最新動向を理解してもらえるようにしたい。
エ	生徒が主体的に取り組み活躍できる教育活動を展開することで、自律的に行動する力や「小山高生」であることを自覚して集団に適應する力を高めるとともに、国際社会や地域への関心を深め、広い視野から地域に貢献しようとする意識を醸成する。	「部活動、生徒会行事、学校行事などを通して、地域との交流が図られている」生徒80%	（生徒課） 生徒77.3% 保護者82.0% 教員83.3%	B	・地域交流については、昨年度に比べ多くの部活動が地域とのつながりを意識し、貢献する機会を作ることができた。来年度は、より生徒が主体的に参加し、地域との交流を深められる内容を考えたい。
オ	授業公開や参観の実施、研修への参加等により、「主体的、対話的で深い学び」や生徒のICTの活用による授業改善を推進し、教員の授業力を向上させる。また、総合的な探究の時間を充実させる。	「学校はICT活用等、授業改善に積極的に取り組んでいる。」85%	（教務課） 生徒86.9% 保護者83.6% 教員91.7%	A	・ICT環境整備が進み、ICT活用ができる状況が整った。 ・校内研修や授業参観などで情報交換しながら授業改善に取り組む場面が非常に多くなった。今後も更に研修を続けていきたい。
		「総合的な探究の時間の趣旨を理解し、指導することができる」教員80%	（総合的な探究の時間実施委員会） 教員75.0%	B	・今後も教員に向けて指導方法などについて情報を提供することを継続的に行う。 ・指導計画について提示し、教員に年間を通じた指導イメージをもってもらえるよう制度設計をわかりやすくする。